

親子の会話が心を育む！

2025.1 名島保育園 増野

みなさんは、朝起きてから夜寝るまでの間、どのくらいの時間をお子さんと過ごしていますか。フルタイムでお仕事をしている、家事育児に家族の協力が得られないなどの理由で「子どもと話しをする時間が足りない」と感じている保護者さんもいらっしゃるのではないのでしょうか。近年では、携帯電話やタブレットが普及し、親子や家族での会話やコミュニケーションが年々減ってきている傾向にあるようです。

子どもの自己肯定感を育む

会話を通しわたしは話しを聞いてもらっている、私の声はきちんと届いている、そう感じられる事は安心感であり心地良さです。大人でもそうではないでしょうか？この心地よさを幼児期に体験することは子どもにとって非常に大切なことです。自分は愛されている、存在意義があると感じ「自己肯定感」を高めてくれます。また自分を信じる事は、他者を信じ認める事へもつながっていきます。

0～6歳までの幼児期は、この自己肯定感が育つ大切な土台の時期です。この時期にたくさん受容されて、無条件に愛され、必要とされていると感じられ自分は自分のままでいいのだと思える事は幸せに生きていくうえでとても大切な事です。「ねえねえ！」「あのね」と会話を求めてくる子供に、少しでも手を止めて向き合う時間をつくってみませんか？それだけで、子どもは安心し、幸福を感じます。今、この時期を大切に、愛情をそそぎながら過ごしていきたいですね。

参考文献：「始まりは愛着から」佐々木正美著

「家庭の友」(2025.1) マリアーニ綿貫愛香

ミラノから見たモンテッソーリ教育